

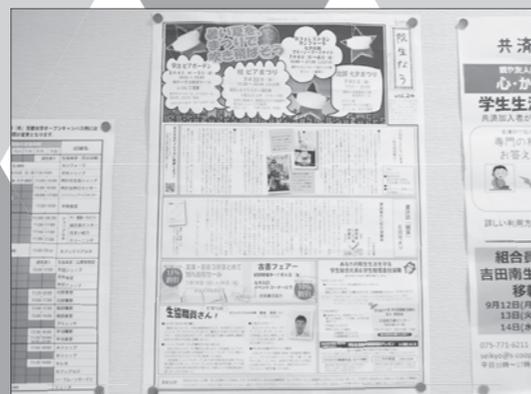
らいふすてーじの 新コーナーに迫る!

皆さんは『らいふすてーじ』の2016年10月号に新しいコーナーができたことにお気づきでしょうか？ 今回の京大探偵団では、その新コーナーである「院 side out」を紹介すべく、執筆をしている方にインタビューをしてきました。

「院 side out」って何ですか？

「院 side out」は『らいふすてーじ』に10月号から隔月で掲載されるようになった新コーナーです。作成は院生委員会が行っています。「院 side out」の前身である「院生なう」は生協の食堂などの掲示板に設置していましたが、この度名前や内容を一新して、『らいふすてーじ』に掲載されることになりました。

ちなみに、名前を変えたのは「なう」という言葉が今の流行からちょっと遅れているように感じたからです。ですが、新しいタイトルにも「院」の音を入れたいと考えており、そこから"inside"という単語を使いたいという発想に至って、このタイトルになりました。



▲カフェテリアルネに掲示されていた「院生なう」

どのような記事を執筆していますか？

もともと「院生なう」では大学の研究室を紹介する記事の部分だけを執筆していたのですが、これからは例えば修士論文執筆中のあるある話など、いろいろな記事を掲載していきたいと思っています。今後掲載する記事の予定は一応院生委員会であらかじめ話し合っているのですが、実際には編集会議でアイデアがどんどん膨らんでいって、気が付いたら当初の予定とは全く違う記事に決まってしまうこともあります。10月号も当初は全く別の内容を掲載する予定だったんですよ。なので、今後一体どのような記事が掲載されていくかは私たちにもまだわかりませんね(笑)。



▲「院 side out」の主な執筆者であるおうち應地晴香さん

～院生委員会～

院生委員会は京大生協の組織の1つで、らいふすてーじ編集部が所属している学生委員会の姉妹組織のようなものです。修士課程の人だけではなく博士後期課程の人にも所属しており、「院 side out」の執筆の他に、他の大学から京大の大学院に入学した人を対象としたウェルカムパーティーの開催も行っています。

なぜ掲載場所を変えたのですか？

今までよりも、もっと多くの人に読んでもらいたいというのが一番大きな理由ですね。「院生なう」の頃はいわゆる壁新聞として設置していたわけですが、それだとなかなか組合員の方の目に留まりにくいのではないかと以前から感じていました。せっかく作ったのに読んでもらえないのは悲しいですよね。そこで、もっと組合員の方の目に留まりやすい場所に掲載したいと思い、読者層も学部生から院生や教職員まで幅広い『らいふすてーじ』が良いのではないかと話になりました。また、『らいふすてーじ』なら、読者からの意見ももらいやすいと思ったというもあります。



▲院生委員会の皆さん

院生委員会ならではの強みは何ですか？

「院 side out」では主に院生について扱っているわけですが、やはり実体験に基づいて書けるというのが、メンバーが院生である私たちならではの強みだと考えています。学部の4回生の頃にも研究室には通っていましたが、その頃にはわからなかったこともありますからね。それだけではなく、院生委員会にはさまざまな研究科に所属している院生がいることも「院 side out」を書くうえでプラスに働いていると思います。同じ院生といっても研究科ごとにそれぞれ特色があり、そういった観点をうまく活用することで記事に厚みを持たせることができますからね。



▲編集会議の様子

読者へのメッセージをお願いします

「院 side out」は『らいふすてーじ』の後ろの方に掲載されますが、それでも毎回楽しんで読んでもらえるような記事を書きたいと思っています。今回新たに『らいふすてーじ』に掲載することになったわけですから、院生が実際どんな感じなのかをぜひ学部生の方に知ってもらいたいですね。やっぱり院生って学部生から見たら謎の存在だと思いますから(笑)。私自身、自分が院生になるまではそう感じていました。

もちろん、学部生以外の方にも院生について新しい発見ができるような記事にしていきますから院生や教職員の方もぜひ読んでみてください。



▲完成した「院 side out」

**p. 7に今月の「院 side out」が掲載されています！
ぜひ読んでみてください！**